

ワークショップ実施手順

<ワークショップの趣旨>

本ワークショップでは、グループに分かれ、各グループの代表の学生の研究を一般の人に伝えるための方策を探ることで、研究の展示や伝達について考えていきます。

日頃、研究を研究者に伝えることの多い私たちですが、いずれ研究者として、広く世間の人に、大人から子供までに自分の研究の意義や面白さをわかってもらえるようになる必要があります。

そこで、研究を伝える練習として、特に、このフォーラムのメインテーマである『博物館の役割』に即して、研究を一般向けに展示することを基本に考えてみましょう。

さあ、一緒に研究の展示・伝達を考えましょう。

<ワークショップのやり方>

ここではフォーマットが書かれた模造紙（図1）に、自分の考えを書いた付箋を貼っていきます。具体的には、コア（研究内容の発表者）は青の付箋、その他のメンバーは赤の付箋、いくつかの意見をまとめた意見・アイデアは黄の付箋に書いて貼っていきます。

貼られた付箋を参考に、最後のまとめを作成します。

（注：当日の付箋の使い方は、各班で多少違いもありました。）

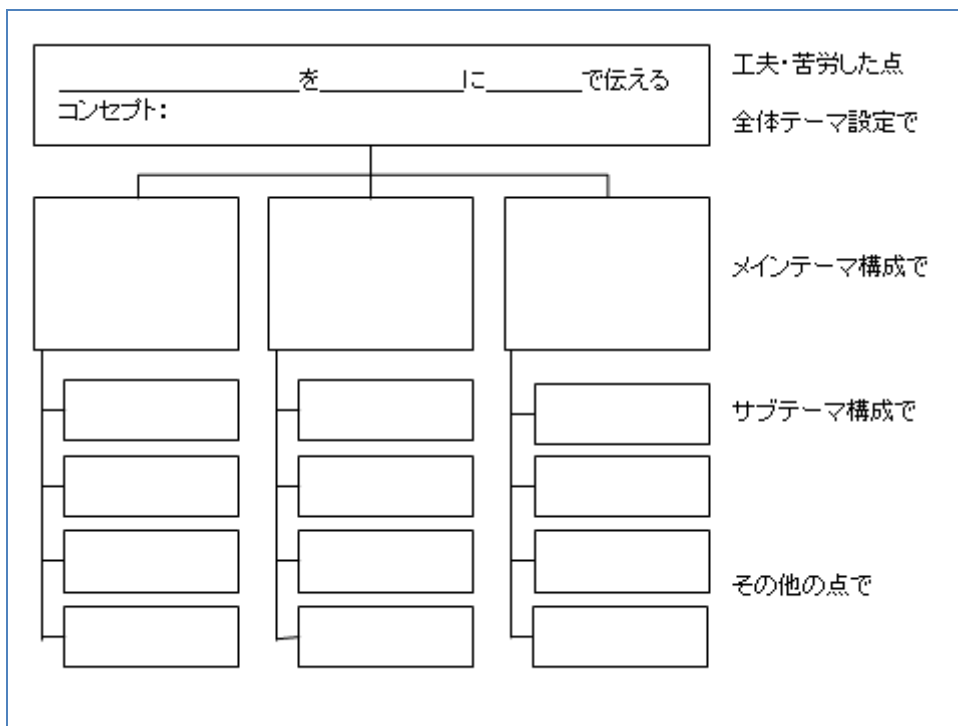


図1 ワークショップの模造紙フォーマット

<ワークショップの流れ>

企画展示見学終了後、グループ分けと、企画委員からのワークショップに関する設定や原則の説明があります。その後、60分を使ってグループワークを行います。

60分の使い方の目安

5分：役割分担（コア、進行役、成果発表者、書記・タイムキーパー）

10分：コアの人が**研究の説明**

15分 **ディスカッション**

15分 **具体的な展示方針の決定**

15分 **模造紙の清書と発表の準備**

<ルール>

- ・ 学生は全員最低1つ役割を分担する。
- ・ 研究を伝える相手は、ワークショップの担当者から伝達された相手を想定して考える。
- ・ まとめの発表のときは、「どういう対象か（来場者、年齢等）を踏まえ、どのように展示するか」「その展示を考える時の苦労や工夫は何であったか」を話す。

<考えるヒント>

- ・ 伝える相手の予備知識、理解度、関心度を考える
- ・ 伝える上での手法や機材の利用とその課題を考える。